和歌山県立 新宮高等学校同窓会報
磐盾

第44号
平成29年3月1日発行
和歌山県立
新宮高等学校
同窓会
新宮市神倉三丁目2番39号

平成二十八年度

同窓会総会・講演会・コンサート 盛大に開催される

ピアニスト・美術家 向井山 朋子氏（三十四回卒）がピアノコンサート ～境界をめぐって～

十月二十三日（日）午後六時三十分より、新宮高等学校定時制多目的ホールにおいて、平成二十八年度同窓会総会、同体育館において同窓会講演会・コンサートが開催された。

総会では、夏山晃一同窓会長、畑伸憲校長の挨拶の後、矢熊敏男常任幹事を議長として議事に入った。事務局からの事業報告、会計からの会計報告、監査からの監査報告がなされ、それぞれ承認された。

小憩後、向井山朋子氏（第三十四回卒業・ピアニスト／美術家）が、「境界をめぐって」をタイトルに講演とピアノコンサートを行った。コンサートでは、オランダの作曲家シメオン・テン・ホルト（一九二三―二〇一二）の代表作である「カント・オスティナート」を約七十分間演奏され、体育館に詰め掛けた同窓生や地域の方々など約四百人を魅了した。

講演概略は、次に掲載。

現在、アムステルダムに住んでおり、年間で四十回から五十回のコンサートや展覧会を開催しています。この様な形で戻って来られて嬉しいです。ありがとうございます。

私は、新宮に生まれ、五つの時から母にピアノをさせられてきました。もう本当に嫌で無理やりやっていて。とても巨大なモンスターというか、化け物のような楽器にいつも一人で向き合わなければなりません。ピアノを通して何かを見るということをずっとやって来て、いつしかこの楽器が自分の体の一部のように感じるようになってきました。

そう感じた頃から、音楽だけをやるのではなくそれ以外のことをやってみようと考えるようになりました。

今月、台湾の台中に国立のオペラハウスが出来て、こけら落としをさせて頂きました。

そこではイタリアの十人のダンサーたちと一緒に舞台の演出をさせて頂きました。

六十分の舞台の中には、音楽、つまりコンサートもあり、インスタレーションという美術的な仕掛けの中をみんなに歩いて頂いたり、舞台美術が途中で降りてきたり、後半になるとファッションショーが始まったり。建築家の伊東豊雄さんが舞台の装置を作られるなど、境界を超えた、何とも名付けられないようなジャンルのものを作りました。

普通、コンサートというと、ピアノは舞台の上です。お客さんはフロア側です。そうすると、二つの世界になってしまいます。音楽の情報が、一方通行で前から来る。音楽はエネルギーです。そういうものが一方通行ではなくて、渦のように回るような空間が作れないかということをいつも考えて作品を作っています。

私は東京で勉強をして、その後、アメリカに行き、何年かしてオランダに行きました。オランダに行った時は、二十三～二十四歳で、まだ学生でした。しかし、オランダでは、若いからとか、女だから、学生だからとか言われたことが一回もありません。境界がない素晴らしいところで活動をして、いろんなことを教わり、いろんな人と知り合い、今に至っています。

でも、新しい作品を作っていると新宮にいた頃のことをいつも考えます。一昨年は『シロクロ』という題で、ダンスの作品を作りました。その中には、大浜の石の感じをイメージするような舞台であったり、新宮を照らす太陽のような、目が見えないぐらいに強い逆光であったり、最後のラストシーンでは、日の出のようなイメージであったりと。オランダに住んでもう何年も経ちますが、自分の背骨というか、どういうふうにピアノの陰から世界に響くようにというか、どのように自分を見ているか、人を見ているかを考えるときには、いつも新宮の景色だとかを感じていました。

質問者　世界的なところをいろいろ見ていて、向井山さんの背骨になっている新宮市は、どのようにしたら発展して良くなっていくのか。世界的な観点から聞かせてください。

向井山　私がいつも言うのは、新宮には、たくさんの神社があり、太平洋があり、熊野三山が後ろにある。自然が豊かなところです。その部分と、アンバランスなのは、私の中学、小学校のときのことを考えると、近代というか、ヨーロッパから入ってきたカルチャー、アートに触れる機会がない。それが何かを考えるヒントになるのではないでしょうか。そういったことを欲するような声を少し上げて、そういったものに触れる機会があるようにする。そういうものをもう少しこれから作っていくような動きの始まりになるようにしたいと思います。

質問者　アムステルダムと新宮との何か共通点はありますか。また、日本と全く異なる文化圏で暮らして、芸術活動に影響を与えたことはありますか。

向井山　たぶん全部違うと思います。山がないです。アムステルダムは、人がつくったというふうにいわれています。しかし、ここは神様のつくった国といわれています。だから、もうはじめが違う。でも、自分の生まれたところと全然違うところに身を置いて、違う価値観のところで、いろいろなことを発見させられて、その人たちと生きているのは面白い時間です。

今日は、一曲だけの演奏を予定しています。曲は「カント・オスティナート」といいます。カントとは「歌」、オスティナートとは「繰り返し」という意味です。シメオン・テン・ホルトというオランダ人の名作で、とても面白い曲です。今日は一人で弾きますが、この曲は本当は一台でもいいし、二台でもいいし、ピアノ三台、四台でも弾けます。楽譜が短くて、どれだけ繰り返してもいいという曲です。「私、このフレーズはもういい。言い尽くした」と思ったら次に行く。それを掛け合わせてという具合になります。今日は独り言を言いながら「このぐらいやったらもう先に行こうかな」と感じながら弾きたいと思います。

平成28年度 同窓会総会

ご挨拶

同窓会会長　夏山 晃一

同窓会会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申しあげます。また、平素は、同窓会活動に対し絶大なるご支援とご協力を賜りますこと、厚く御礼申しあげます。

さて、同窓会の活動状況についてですが、十月に母校において総会を開催させて頂き、併せて開催しております卒業生を招いての講演会では、ピアニストで美術家としてご活躍されております第三十四回卒業の向井山　朋子氏（オランダ、アムステルダム在住）をお招きし、ピアノコンサートを開催させて頂き、約四百人の参加者が魅了されました。有意義な一時を過ごさせて頂きました向井山氏に心より御礼を申しあげますとともに、更なるご活躍を祈念しております。

一方、関東では関東新中会、関西では新宮三校同窓会関西支部の皆様方が積極的な活動を展開して頂いております。本当に心強く感謝を申しあげるところでございます。

また、各卒業生も節目、節目で同級会を開催し、交流を深めていることもお聞きしております。

同級会が「横」のつながりであるのに対し、同窓会は「縦」のつながりであります。このような強い「横」のつながりをより強固、また活動を充実したものにするためにも縦横無尽に同窓会を活用して頂きたいと考えております。

また、同窓会には各界でご活躍されている多くの同窓生がいます。

全国ラグビー大学選手権で前人未到の八連覇を成し遂げた帝京大学ラグビー部監督の第二十八回卒業の岩出雅之氏、秋の褒章で熊野地域の自然保護に対する功労で、藍綬褒章を受章されました第十七回卒業の元本校教諭の濵野秀二氏には、心よりお祝い申しあげますとともに、更なるご活躍を期待しております。

同窓会のネットワークは本当に貴重なものであり、後輩である在校生たちに様々な応援ができる会でありたいと願っております。今後とも、同窓会活動へのご理解・ご協力お願い申しあげ、ご挨拶とさせて頂きます。